

簿記のインターカレッジ「春季全国大学対抗簿記大会」

専大生が大活躍

阿部裕泰さん 1級の部 優勝

全国15会場で行われた簿記のインターカレッジ「07年春季大学対抗簿記大会」(資格の大原・大原大学院大学主催、毎日新聞社・イタリア大使館後援)で多くの専大生が優秀な成績を収めた(103大学・2852人参加)。

個人1級の部で優勝した阿部裕泰さん(商2)＝写真＝は、複式簿記の創始者、イタリアのルカ・パチョーリを記念したルカ・パチョーリ賞も手に。イタリア大使館から副賞として複式簿記発祥の地、イタリア・サンセポルクロ市訪問など約2週間のイタリア・フランス旅行が贈られた(12月中旬出発予定)。

本学エクステンションセンターの「会計士講座」で学んでいる阿部さんは、昨年の同大会3級の部でも優勝。「問題を解いている途中で、手ごたえを感じた」と語る今回は、団体戦1級の部でも「チーム専修C」(中村哲也さん＝商2、塚田純平さん＝同＝と出場)で準優勝となった。

「入学して、早い時期に『やりたいこと』が見つかり、充実した学生生活が送れていると思います。『公認会計士現役合格』という明確な目標ができてから、講座も真剣に受講するようになりました。高校までスポーツをしていたので、モチベーションのあげ方やスケジュール管理、集中力には自信があります。メリハリをつけた学習で、目標を達成します」と語ってくれた。

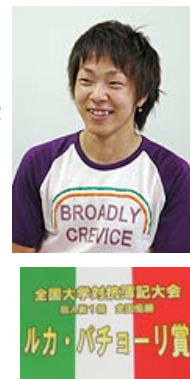
専大からの他の入賞者は次のとおり。

〈団体戦1級の部〉

準優勝＝チーム専修C

〈個人戦3級の部〉(敬称略)

優勝＝工藤圭恭、中山貴志、横張勝也、菊地拓也、富樫和之、大野慎也(以上商1)、飯塚大(経営1)、内山由美、西村祐貴(以上商2)



体験授業フェア

52講座で開催

LIVEで感じる専修大学

6月24日、生田キャンパスで行われた「体験授業フェア」(全52講座)に、約1000人の参加があった。受付や案内は、入学センター学生スタッフが担当。在学生相談コーナーでも、受験生からの相談に丁寧に回答していた。



▲「売れる商品はどう作る？」— 新井範子経営学部長



▲「国際開発と日本の協力」— 狐崎知己経済学部教授



▲在学生相談コーナーで応対する学生スタッフ



▲「言葉と、人の間」— 大庭健文学部教授

<夏期休暇中>生田総合体育館のプールを一般公開

生田総合体育館プールを一般の方に公開します。

プールは25メートル×8コース(短水路公認)で水温29度、水深180センチ、サウナもあります。スイミングキャップを着用。小学生以下は保護者同伴で利用できます。

◇公開日=8月1日(水)~11日(土)、19日(日)~31日(金)の合計24日間

◇時間=12時~15時(最終入場14時30分)

◇利用料=1回300円のプール券を購入してください

問い合わせ: 体育事務課 電話 044(3分)911)1273



▲温水プールで泳力アップ

中・高・大学受験生のための「オープンライブラリー」

利用期間＝7月25日(水)～9月7日(金)まで図書館を勉強の場として提供します。

※ 休館日＝土曜日(7月28日は開館)・日曜日及び8月13日(月)～17日(金)

生田キャンパス(本館・生田分館)10時～19時
神田キャンパス(神田分館)10時～20時

直接図書館にお越しください。

問い合わせ：本館 電話 044(911)1274



▲静かで快適な図書館

第41回「黒門祭」開催

第41回黒門祭が6月29日から7月1日まで、生田キャンパスで行われ、学術文化会の各サークルが日ごろの活動の成果を発表した。



▲ボランティア活動研究同好会「樹々(きぎ)の会」は子供たちとゲーム大会を開催



▲落語研究会による「黒門寄席」(写真は大喜利)

生田キャンパスで川崎フロンターレ主催「キッズリーグ」サッカー部が協力

地域に密着したクラブづくりをめざすJ1の川崎フロンターレが、本学サッカー部と協力して恒例の「川崎フロンターレ・専修大学キッズリーグ」を7月8日、生田キャンパス北グラウンドで開いた。多くのちびっこチームが参加、父母の声援を受けながら終日サッカーを楽しんだ。



▲盛大な開会式



▲大切な基本を直接指導

二部春季体育祭

二部春季体育祭(実行委員長・藤田たけきさん＝経済3)が6月17日、生田キャンパスで行われ、約120人がバスケットボールで汗を流した。トーナメントは「TEAM ANDOH」が制し、優勝を果たした。



スウィングジャズ研究会が熱演

7月2日、スウィングジャズ研究会が京王百貨店で行われた「京王沿線大学ビッグバンドコンサート」で「カウント・ベイシー・オーケストラ」の名曲の数々を演奏。梅雨空を吹き飛ばす熱演で観客を酔わせた＝写真。



◀New Ground -新しい見方<15>▶

「メディア・リテラシ」

小林辰明（経済2・ジャーナリズム研究会）

近年、ちまたでよく聞く言葉である。「メディア」というぐらいだから情報がからんだ用語ではあると思う。「メディア・リテラシ」とは一体何なのだろうか？

メディア・リテラシとは「情報が流通する媒体(メディア)を批判的に読み解いて必要な情報を引き出し活用する能力」のことだ。この用語は、インターネットが普及し多くの情報が市民にも提供されるようになってから広く使われるようになった、一種の「IT用語」である。しかしその汎用性は高く、IT関係だけでなくTV、ラジオ、雑誌、本など、ありとあらゆるメディアに対して必要な能力だ。

すべての情報は、人の手によって作られた創作物である。どんなに客観性を求めた内容でも、完璧なものなど一つもなく、発信した人物の意思が介在する。中には「客観的な情報に偽装した主観的な意見」も存在する。ワイドショーなどでは独善的に、かつ憶測のみで構成されるコメントがほぼ断定的に発信されることもある。インターネット上では「個人の意見」に過ぎないはずの文章が、さも「当たり前の常識的な意見」であるかのように書き込まれる。

高度経済成長期を経てテレビは一家に1台以上に普及し、1990年代からはインターネットという新たな情報源が身近なものになった。高度に発展した情報社会である今、情報はあちこちから流れ出て、まるで大雨が降った後の河川のように氾濫(はんらん)し、渦まいている。そこにある巨大な情報群から、なにを引っ張り出し、どうやって読み解くか。これからの時代には必須となる能力に間違いない。



▲「情報」を読み解く力が求められている(生田10号館で)

<<マンガ>>

『7月』

(漫画研究同好会・そのむらたけし 作)

